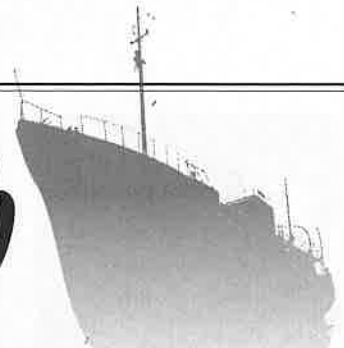


2006.09.01
No.331

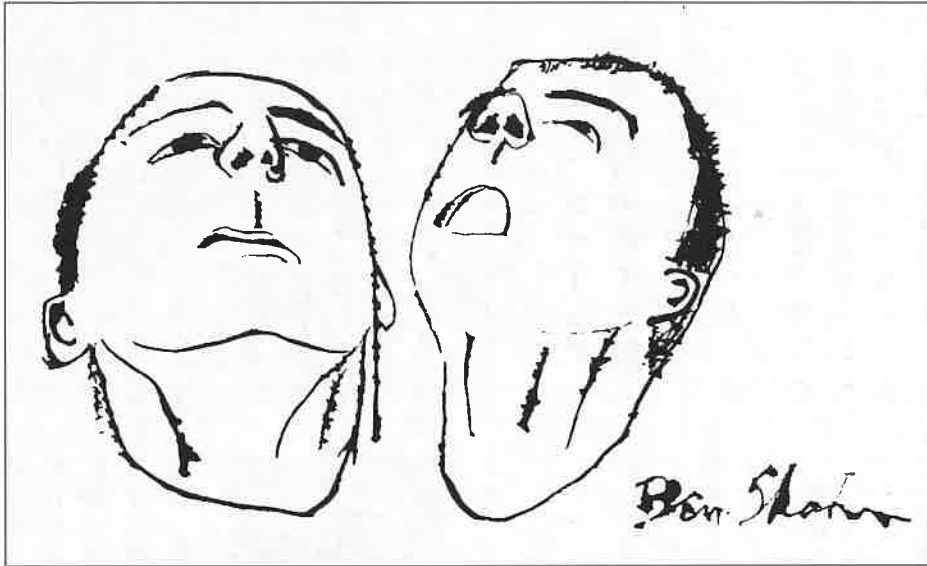
福竜丸だより

発行：財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島3-2 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail:fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org



9月23日 52回目の久保山忌 平和への願いを寄せて



降下物（フォール・アウト）ベン・シャーン作
インク・毛筆 素描、一九五七 第五福竜丸平和
協会所蔵

今年も秋分の日、九月二三日の久保山愛吉さんの命日にはたくさんの方が展示館にたどり、平和への誓いを込めてさまざまな催しをおこないます。

第五福竜丸平和協会は、開館三〇周年特別展として九月二〇日から「ベン・シャーンの第五福竜丸と絵本展」を開催します（詳報2面）。

*

平和を語る第五福竜丸の集いは今年で一四回目、午前一〇時三〇分より午後三時まで、展示館の船体左舷下を会場におこなわれます。民話の語り、紙芝居、うたと演奏などが予定されています。また元乗組員の大石又七さんの「船員保険とビキニ被害者」のミニ講演、第五福竜丸ボランティアの会も「来館者の感想文からたどる開館三〇年」の朗読で参加します。

第五福竜丸のつどいは今年で二〇回目、東京原水協と江東、江戸川原水協の共催です。正午から展示館の見学、二時から東京スポーツ文化館にて講演会、講師は国際問題研究者の新原昭治さんにより「アメリカ核戦略の歴史と第五福竜丸事件」と題しておこなわれ、原爆症認定集団訴訟の特別報告もあります。

結成六〇年を迎えた新俳句人連盟による久保山忌句会は、午前中、展示館やエ

ンジン、館周辺をめぐる久保山碑前に献花するなど吟行をおこないます。午後からは東陽町の江東文化センターにて句会を開きます。高点句作品には、第五福竜丸平和協会から「船員賞」が授与されま

す。マグロ塚をつくる会は、マグロを食べながら事件について考え会員の交流をはかろうと正午より久保山記念碑とマグロ塚の置かれる展示館前ひろばでおこなわれます。

ベン・シャーンと第五福竜丸
各地で開かれるベン・シャーンの
作品展示会

・第五福竜丸展示館 9月20日～11月20日（原画展示10月15日迄）◇ラッキードラゴン素描7点ほか

・福島県立美術館（12月27日）ラッキードラゴン・シリーズのテンペラ画「ラッキードラゴン」（久保山愛吉）作品ほか

・丸の内ギャラリー 9月27日～10月21日

・鎌倉ドゥローイングギャラリー 10月20日～11月5日

・ギャルリー・エヌ・表参道ヒルズ 11月5日～11月25日

・名古屋画廊 11月30日～12月9日

「ベン・シャーン」の第五福竜丸と絵本」展を開きます

九月二〇日～十一月二〇日まで

二〇世紀を代表するアメリカの画家ベン・シャーンが描いたピキニ水爆・第五福竜丸事件の「ラッキードラゴン・シリーズ」の作品がこの秋、絵本となります。

絵本「ここが家だーベン・シャーンの第五福竜丸」(集

英社刊)は、シャーン作品の二六点に詩人でエッセイストのアーサー・ビナードさんが文を寄せ、第五福竜丸の23人の航海と水爆実験との遭遇、久保山愛吉の死をつづり

ます。装丁とデザインはイラストレーター和田誠さんで

す。

第五福竜丸展示館では、出版を記念する企画展として、絵本をページごとに額装して船体にそって展示するとともに協会所蔵の原画(素描)七点を特別展示します(協力・協賛 集英社)。



記念イベント案内

絵本の著者アーサー・ビナードさんを迎えて講演とサイン会

* 一〇月七日(土)

午後二時より四時

* 講演「石に刻む…ベン・シャーンのこころ」(仮称)

* 参加費無料

絵本を作る前にぼくは実際の船を見て、焼津に行き、漁労長の見崎さんの話をうかがい、いろいろ調べた。ベン・シャーンと対等にはなれなかったけれど、近い所に、書き手としてのこっちの足場ができたと思います。

船体のそばに展示すること

実物の船のそばでベン・シャーンの絵を展示すると、両者が語り合い、綱引きをしてピンと張った空気が生まれると思います。

絵本「ここが家だーベン・シャーンの第五福竜丸」と第五福竜丸展示館での展覧会について

アーサー・ビナード

ここ一年、ベン・シャーン



まともていく中で、彼の第五福竜丸シリーズのどこが特徴的なのか、どこが彼ならではの、かなりつつこんで考えました。

「ラッキードラゴン・シリーズ」は、雄大な物語、人類の存続のために忘れてはならない物語を見据えて、それに見合ったスケールで描きだし

たことだと思えます。ベン・シャーンが描く久保山愛吉さんは、ひとりの人間を超越して、わたしたちみんなを含むおおきな存在。俯瞰するような目でとらえています。

本質が凝縮された作品

ベン・シャーンは絵を使わずに、説明しないで、感じさせることで読み手に伝わる絵です。どう構成していったらいいか、最初は迷いがありませんでした。

マグロ漁船で、焼津港を出

てミッドウエーにいき、それからマーシャル諸島に向かう——そういうあらずじですが、絵ではマグロの一匹も出てきません。普通に考えれば、マグロの絵が当然出てくるはずですが、本を作っていて、むしろ描かないで読者の想像の中のマグロをふくらました。ほうが効果的だと分かりました。

ベン・シャーンのリアリズムとは、いわば「みなまでいうなりアリズム」。本質を見つめて必要なものだけで広がる。

福竜丸とベン・シャーンの絵、それこそ両者が対等になり、事件の経過とその本質がより立体的に見えてくる。深いところへ問いかけている絵と、静かな「生き証人」である船が、互いを引き立てるに違いない。歴史と未来を見渡していることを感じてもらえるのではないのでしょうか。

ベン・シャーンの暖かい眼差しにユーモアがあります。船主の西川さんの絵にしても温かい人間味があり、会ったことがあるような気がしてくる。人間を知り尽くした上で描いているからでしょう。

第五福竜丸の舳先に下に立って

八月座 丸本和子

はじめは

蝉の主張

昨年八月、岩垂弘氏著書『核』に立ち向かった人びとが紹介されました。その本の中にある朝日新聞への当初「沈めてよいか第五福竜丸」を八月座でとりあげましよう、と八月座座長荒井なみ子の呼びかけでした。

私たちの正しい名称、生活協同組合東京高齢協朗読劇団「八月座」。旗揚げ二〇〇三年九月一三日。
「八月座たより」第一号にある荒井なみ子の挨拶文の一部をここに写します。
生きたくば
蝉のように鳴け八月は



八月座は60～80代の高齢者の元気な朗読劇団、6月には長野・無言館、8月には豊島公会堂で公演された。

NHKドラマ早坂暁作「花へんろ」よりいただいた句です。

私が自立に目覚めた乙女のとき、戦中戦後暮らしにあえいでいたとき、私は蝉のようになが身の羽根をすり合わせ、声高く自分の存在を主張しました。

いつのまにかズルズルと、あの時代のように靖国神社だけが栄えるといった「いつか来た道」へ逆行しているがごとき昨今、私は戦争を知る世代として大いなる不安と静かに燃える怒りをもっています。そのことを、この「八月座」に託して訴えたいと思います。

朗読って素晴らしいものです。声を前に出して読めば姿勢がよくなり、会話にも自信が生まれます。(後略)

「八月座」の名前の由来は、日本のあの八月なのです。

歩き出した「八月座」。構成・演出担当の荒井孝志による脚本は何れも「八月座」への書き下ろし。「無言館を訪ねて」「アーティクル・サイン」日

本国憲法第九条」「無言館の詩」「タゴール初期詩抄」「戦争とわたし」「第五福竜丸航海中」

事実の重さ

第五福竜丸展示館見学の日。目の前にした福竜丸は、私の予想よりはるかに小さく、この小さな一隻の船が受けた被害のあまりの大きいことに驚きました。被曝という直接の被害は聞けば聴く程恐ろしいものです。それに加えて、被曝によって当たり前の日常が断ち切られたのです。日本も、アメリカもですが乗組員一人ひとりの苦しみなど全く眼中にないような国の対応のお粗末さには怒りがこみ上げます。これこそ語り伝えなければと座員一同の胸に残ったことでしょう。

六一年前に第一号の原爆実験が行われたという記念の日、七月一六日午後二時、第五福竜丸の舳先の下に八月座座員は立ちました。元乗組員大石又七氏が話してくださることもあって五〇人を越すお客様が座って下さいました。

福竜丸に背中をドン！と叩かれていたように感じます。声を張りました。
「第五福竜丸はまだ航海中です」

こだまのように

私たちが出した声は前の壁にぶつかり、後の福竜丸の船腹にあたり、船腹にそって拡がっていきます。きつと。

忘れざり忘れまじ
忘るることなかれ
語り継ぐべし
第五福竜丸

ご案内 ラトビアの医師を囲む会

チェルノブイリの被曝者の治療にあたるラトビアの女性医師2名が来日、懇談会を催します。参加費無料。

*日時 10月11日(水) 18:00-20:00

*場所 カタログハウス・セミナーホール
(渋谷区代々木2-12)

*申し込み電話、FAX 03-3334-9770 まで

夏休み工作教室 大好評!

「牛乳パックでつくろう!第五福竜丸」工作教室が7月末から~8月初めに4回行われ、のべ50人余りが参加しました。

夏前よりボランティアの会を中心に材料集めやパーツ、テキスト作りが進められ、小さな子どもから、「孫へのプレゼント」と年配の方も工作に挑戦。展示館横のビニールプールでの進水式で歓声があがりました。

昨年、港区の青年平和使節団の研修で来館した高校生もボランティアで参加し、交流を深めました。



今年で5年目! エンジンに薬塗り埼玉の 青年ボランティア

8月27日、「平和のための埼玉の戦争展」に参加している青年たち7人が、エンジンにサビ止めの薬塗り作業をしました。今年で5年目の取り組みになります。

薬品の塗布は年2回行っていますが、サビの進行と表面のはく落を止めることができず、保護についての対策が求められます。参加した青年の一人は「5回とも参加していますが、年々劣化しているのが心配です。これからもエンジンの守り手になっていきたい」と語りました。

国内外からの来館者

夏休みに入り、課題をかかえた高校生や自由研究の題材探しに来る家族連れ、夏の平和の取り組みで来館するグループなどでにぎわっています。

7月21日にはワシントンD.C.の高校生グループが訪れ、感想やお礼の手紙が寄せられました。

7月28日には英ブッラッドフォード大学のピーター・ヴァンデン・ダンジェン教授(平和学・平和博物館研究)が藤田秀雄副会長の案内で来館し、翌日は「アクティブミュージアム 女たちの戦争と平和資料館」(新宿区)を見学後、同教授を囲む会にて講演しました。



資料が寄贈されました

ビキニ事件に関する記事が収録されている資料として焼津市史編纂室より『焼津史(通史編 下巻)』、静岡県立中央図書館より『静岡県史(近現代史 資料編)』が寄贈されました。

石井あや子さん逝去

女性運動家で新日本婦人の会元会長の石井あやさんが7月13日心不全のため亡くなりました。103歳でした。

石井あやさんは、第五福竜丸保存委員会発足当時の常任委員で、第五福竜丸平和協会の評議員、顧問を歴任されました。ご冥福をお祈りいたします。

来館者の感想から

◇これを保存していくことは自分たちへの戒めにもなると思うので大切にしていきたい。(埼玉 17歳 男)

◇第五福竜丸以外の類似案件も充実してくださると、平和への知識も深まり理解がひろがると思います。

(神奈川 42歳 男)

◇今回の体験で水爆の破壊力にすごくショックを受けました。乗組員の方たちはとてもかわいそうでした。家族、友人の心の中にも深い傷が残ったことも知りました。この事実をしっかり和受止め二度とこんなことがおきないことを願って生きていきたい。

(豊川市立一宮中学校 3年)

◇展示されていた写真をみてとても恐くなりました。想像しているのとずっと見ることができませんでした。久保山さんについての資料や担当した医師の手記などを読みたくないと思いつつ全部読んでしまいました。とても痛々しかったです。展示館に見学に行くまでは軽く見ていたんです。第五福竜丸にもふざけて触ったりしていました。でも資料を見て説明を聞いたらそんな気分ではなくなりました。被害にあった人たちの苦しみ伝わってきたからです。

(半田市立乙川中学 3年)